

墨による絵のなりたち

墨は太古からアジア地域で文字の記録、またはイメージを伝えるための道具などとして幅広く用いられてきました。絵画においては、中国・唐代に盛んであった宗教画や人物画の制作で行われていた、墨の描線による白描画に彩色をほどこす技法が主流でしたが、唐代後半には山水画を描くための方法として、墨の描線だけでなく墨の濃淡やにじみ、かすれなどを用いることで、面や形、明暗を表現する技法が成立しました。これが水墨画と呼ばれるものです。

日本には鎌倉時代の中ごろ、禅宗とともに多くの中国絵画が流入し、なかでも道釈人物画や祖师像など禅の精神をあらわす手段として描かれた水墨画は禅宗寺院を中心に広まっていきます。室町時代には足利家が禅宗を庇護したことにより禅文化や五山文学が栄え、

如拙、周文、雪舟など五山の僧を中心に山水風景を主とする「詩画軸」と呼ばれる水墨画が多く描かれ、盛んとなっていきました。

一方、文人画は江戸時代中ごろに長崎を通じて日本にやってきました。それ以前にも室町時代には中国の禅僧や画家たちにより濃彩の仏画や水墨画などが多く流入してきていましたが、このとき黄檗僧によってもたらされた中国の新しい文物は上方や京の知識人たちに大きな影響を与えました。中国文化への強い憧れを持っていた彼らは文人の絵、職業画家の絵の区別なく貪欲に吸収していき、日本独自の文人画というものを形成する先駆として大きな役割を担っています。

その後、中国文物や詩画への興味の舞台は町人層をはじめとする民衆へと広まっていきました。文人画を描くことを自己の研鑽や研究

INFORMATION

田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみ I 墨に彩られた世界 ～文人画・禅画・南画～

会 場／田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館

会 期／平成27年4月18日(土)～6月28日(日)

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日(5月4日は開館)・4月30日(木)・5月7日(木)

※5月26日(火)～5月28日(木)は展示替のために休館します。

★展示解説会を開催します

田辺市立美術館：5月16日(土)・6月13日(土)／熊野古道なかへち美術館：5月9日(土)・6月6日(土) いずれも午後2時から学芸員が行います。

主 催／田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館

観覧料／各館：400円(320円)

学生及び18歳未満の方は無料

※()内は20名様以上の団体割引料金です。

新収蔵作品について

昨年度は3点の作品のご寄贈がありました。すべて田辺市内の方がご所蔵されていたもので、一昨年の当人の逝去、遺言によってご遺族からご恵贈いただいたものです。

入江波光(1887―1948)《杏咲く頃》(1926年／47.6×56.3cm／絹本・軸装 ※表紙に作品紹介を掲載)、竹内栖鳳(1864―1942)《水村雨霽》(44.0×58.6cm／紙本・軸装)、稗田一穂(1920―)《涉禽》(1987年／53.5×41.2cm／紙本・額装 ※右の図版)の3点で、いずれも近現代の日本画の表現を革新した重要な画家たちの充実した作品です。入江波光、竹内栖鳳の作品は初めての収蔵となるものです。

またこの他に、当市が所蔵している作品を当館の所蔵品として登録する管理換えが2件ありました。鍋井克之(1888―1969)の作品、《円月島(紀州白浜温泉)》(1933年／51.2×59.0cm／油彩・カンバス・額装)と、堂本印象(1891―1975)の作品、《阿弥陀三尊像》(1965年／各127.0×64.0cm／紙本・額装・三面 ※当市奇絶峡に刻されている磨崖仏の原画)です。これまでも当館で保管し、展示も重ねてきた作品で、今後も良好な状態の維持と紹介に努めたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)

ジョアン・ミロ ～スペイン巨匠の版画～

ジョアン・ミロ(1893～1983)を、パブロ・ピカソやサルヴァドール・ダリらとともに、20世紀の美術の世界を押し広げたスペインを代表する作家の一人に挙げることは異論のないところだろうと思います。ピカソやダリと同様に、ミロも幅広い造形表現に才能を発揮しましたが、版画は特に重要な制作の分野でした。生涯に2500点以上もの作品を発表し、1954年のヴェネチア・ビエンナーレでは版画大賞を受賞しています。

詩を愛好し、詩人たちと親交を結んだミロは、数多くの詩画集にたずさわりました。そのための制作が、版画の表現を独特のものにし、魅力的なものにする大きな要素となっています。

35歳のときに手掛けた最初の版画作品も、リース・イルツの詩集『一羽の小さなカササギがいた』のための挿絵8点でした。以後もトリスタン・ツァラ、ポール・エリュアール、ジャック・ブレベールといった、同時代の詩の表現を切り開いていった詩人たちとの共同制作のなかで、ミロは自身の版画の技法をこらし、実験し、その表現を展開して豊かなものにしてゆきました。

このミロの版画の世界を紹介する展覧会を、今年の7月18日から8月30日にかけて当館で開催します。ミロの詩に満ちた表現に接することのできる、絶好の機会になるかと思います。ご来館をお待ちしております。

(学芸員 三谷 渉)



稗田一穂(涉禽)

1987(昭和62)年



約150点の版画作品を展観する今夏の「ミロ展」の図録

のために行うものなども現われ、江戸中期から後期にかけて文人画は隆盛を極めることになります。狩野派などの絵師をはじめとする職業画家が行う水墨表現に対して、中国文化への憧れに端を発している日本の文人墨客たちが行う水墨表現は、それが山水画であっても花卉花鳥図であっても、作画技術にこだわらない自由な発想で表現されるものでした。

幕末から明治にかけて、文人画は依然として大きな人気を保っていました。幕末の志士たちが文人画風の



渡瀬凌雲(暮) 1932(昭和7)年

熊野古道なかへち美術館蔵

絵画と出会う「この一点!」

館蔵品展「凌雲 ―スケッチから広がる世界―

【会期】7月18日(土)～8月30日(日)

自ら「風景画家」と称した渡瀬凌雲にとって、スケッチ旅行は制作の原点でした。国内外様々な土地を訪れては多くの経験と画題をそこから得ましたが、とりわけ沢山のスケッチや写真を遺した約一年間の滞米期間は、後に凌雲の作風を大きく変える分岐点となりました。アメリカではこれまで描けなかったようなものも対象にして記録を残しており、新しい時代の南画を模索していたことがうかがえます。

一方スケッチブックの中には、観光旅行者の絵日記のようなものも含まれ、本画には出てこない凌雲の側面も興味深くみることがができます。

ハワイは海外旅行をする日本人の中で今なお筆頭にあげられる観光地ですが、凌雲にとっても、また新しい世界を前に希望に胸を膨らませて降り立った場所であつたに違いありません。下図のスケッチは初めて見たワイキキの風景を記念に描いたものです。スケッチの左下に見える日付11月15日は、アメリカ、ハワイ到着の第一日目です。この日にホノルル美術館と植物園を見学し、風景も写生したと、帰国後凌雲が作成した「訪米概記」には記されています。画家として大きく変化していく一年がここからスタートしました。

(学芸員 山本 泰代)



渡瀬凌雲《ダイヤモンドヘッド ワイキキ》

1958(昭和33)年

スタイルで描くことや、描かれた画を好んだことがその要因でした。しかし、これが文人画の大衆化を招くこととなり、文人としての知識や教養、作画の技術に関係なく誰もが描くようになりました。その結果、西洋絵画の流入の中で行われたフェノロサや岡倉天心たちによる、伝統的日本絵画復帰の流れのなかで「真の絵画の敵」として文人画は攻撃され、衰退の一途をたどることになります。

明治以降、近代日本画壇の中心に文人画が躍り出ることはありませんでした。しかし、そのようななかでも富岡鉄斎のように近世以来の古画習熟という伝統を継承し、後に登場する多くの画家たちに影響を与えた人物もあらわれます。彼は同じ文人画家の田能村直入と「日本南画協会」を設立、これは後に全国組織の南画団体である「日本南画院」へとつながっていきます。

大正に入ると従来見られなかった新しい南画が発表されるようになりました。それは、南画の精神を引き継ぎ、その技法や画風を参考にしながらも、日本だけでなく西洋の風物をもモチーフとし、墨と色彩の用法や描法に工夫をこらした独自の表現方法で制作する画家たちの出現によるものでした。

(主任 辰巳 充)

ORANGE vol.21の解答

《南紀巡覧図》の旧蔵者

前号の『絵画と出会う「この一点!」』では《南紀巡覧図》の旧蔵者についての問題を皆さんにお出ししていました。その解答です。

《南紀巡覧図》上巻・下巻の巻末にそれぞれ「兼葭堂蔵」の款記と蔵書印(右の図版)があることから、この図巻二巻はいずれも大坂で酒造業を営んでいた町人学者、コレクターであつた木村兼葭堂(1736―1802)が旧蔵していた作品であることが分かります。(ちなみに、会場の解説パネルに「脇村義太郎氏旧蔵」と表記していたため誤解された方もいらっしゃると思いますが、この方は前旧蔵者であつて、問題にあった近世の文人画家ではありません。)

兼葭堂は商業のかたわらで国内・国外を問わずぼう大な文物を収集・研究していたので、彼の家はその情報を求めて全国各地から多くの文人墨客や学者たちが集まるサロンとなっていました。本図の作者や手に入れた経緯はまだ判明していませんが、この作品もそうしたなかで自身の博物学的な興味をもとに手に入れた作品の一つだったのではないかと考えられます。

(主任 辰巳 充)



下巻巻末



上巻巻末

池 大雅東坡畫院(図)

(公財)脇村義学会蔵 田辺市立美術館寄託

平成27年度

■ 田辺市立美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

①田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみI 墨に彩られた世界 ～文人画・禅画・南画～			②特別展 ニロ展 ～スペイン巨匠の版画～			③田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみII 色彩が魅せる世界 ～油彩画・水彩画・近代日本画～			施設修繕のため休館		
【前 期】 4/18(土)～5/24(日) 5/29(金)～6/28(日)			【後 期】 5/29(金)～6/28(日)			9/19(土)～11/8(日)					

■ 熊野古道なかへち美術館

■ 熊野古道なかへち美術館											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			展示替のため休館	②館蔵品展 凌雲―スケッチから広がる世界	展示替のため休館	③田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみⅡ 色彩が魅せる世界 ～油彩画・水彩画・近代日本画～		展示替のため休館		④館蔵品展 咲く―雄賀清子のスケッチより	
	【前期】 4/18(土)～5/24(日) 5/29(金)～6/28(日)			7/18(土)～8/30(日)		9/19(土)～11/8(日)		★美術館開放講座を予定しています		2/6(土)～3/21(月・祝)	